

与三さんが、舟に……」

侍の声「やめよ！ やめんか！」

千歌（M）「と、そこに、お武家様が数人：

……さっと川辺へ降りてゆく」

侍「備前様のお越しであるぞッ。おかしな真似をするでないッ」

千歌（M）「村人たちが一斉にしやがみ、平伏した。その向こうに、陣笠を被った眼光鋭い御代官様が立っていた。後で知ったことだが、江戸からお戻りになられたばかりの伊奈備前守様だった。備前様はお父様を呼びつけ、きつく叱責されたという」

備前守の声「そのほう、わしの顔に泥を塗るつもりか？ この伊奈備前が人柱を立てたとあつては、天下の笑いものになろうぞ」

千歌（M）「私の目には、備前様こそ竜神様だと映った。備前様がきつと、この川普請を無事に治めてくださる。そう願った」